

平田研一議員(民主)

平田議員 公教育とはいえ財政を無視した施策ではいけないと思うが、日本は諸外国に比べて国や自治体が教育にかける予算が少なく、父母負担が大きいのは事実だ。教育は私人を公人にするための制度なので、単に行財政改革の対象にしてはいけない。宇治市の場合、教育改革イコール行財政改革になっているように見える。教育を財政面の有効性のみで判断してはいけない。

宇治小問題には機会がある度に意見を述べてきたが、明確な答えをもらえていない。保護者の意見も「絶対反対」から「敷地拡大」へと変わったりし、保護者の中にも温度差があるようだ。

グラウンドが683人の小学生に6,830㎡、351人の中学生に4,710㎡という規準を足すと11,540㎡必要だ。8,400㎡でよいという根拠を詳細に説明してほしい。

市教委 施設・教育内容を理解していただくため、4回の説明会を持った。発言しにくいという意見を取り入れて、個別質問窓口もを持った。不安があることは承知しており、今後、小グループでの懇談を持つなど、よりいっそう理解してもらおう努力をする。その都度努力してきたが、節目ごとに細かく説明する必要がある。11月7日には先進校の事例と成果を学ぶフォーラムを開く。

設置基準についてはこれまで3度文科省に照会した。「小中の合計は必要ない。支障がなければ片方の基準を満たすのでよい」とのことだ。8,400㎡を超える11,000㎡あり、十分だ。「中高一貫校では施設の共有化が有効」ともされている。「中高一貫校」を「小中一貫校」と読み替えてよいとされている。

基本コンセプト具現化のアイデアを設計に盛り込んだ。説明会、推進協議会、児童ワークショップでの意見もできる限り取り入れた。具体的には(1)教師ステーション、(2)メディアセンター、(3)普通教室と多目的室を合わせたユニットの形成、(4)…

平田議員 きめ細かい説明会を口だけでなく実施してほしい。地域からいろんな声を聞いている。不安は解消していない。初めての経験だ。市にとっても初めてだ。初めてだという思いを共有すべき。保護者、地域が教育の原点をどう理解しているか？「一貫校」は街づくりにとって何なのか？

グラウンド面積について。小・中の設置基準は最低基準だ。特別の定めがない場合は守るべきだ。市の面積の根拠は「ただし特別の場合は」という但し書きによっている。国に直接尋ねたら「国に規準はない。市の判断による」とのこと。考えようでは市が好きのようにできる。市内の他校より狭いことを認めて進めないといけない。私が考える解決法は、(1)新たな広い土地に建てる。(2)隣接地の購入(3)離れた土地・施設の利用(4)屋上の活用その他である。

提示されたプランのどこに魅力があるか？小学校として、中学校として、「一貫校」としてどうか？私には魅力が感じられない。環境は？安全は？開かれた学校づくりは？

市教委 小中一貫教育の必要性は、学力と豊かな心の育成にある。「中一ギャップ」が学力が伸びない1つの原因。学びの不安を解消し、自尊感情も育てる。地域コミュニティーと

の関わりは今まで小学生が中心だったが、中学生を計画段階から参加させることができる。コミュニティ形成については「ある」から「なる」へと考え方を変える必要がある。敷地について。規準を文科省に3回照会した。土地は買えるものなら買いたい。可能かどうか検討したが、周りの状況から難しく、現有敷地の有効活用を考える。黄檗公園など恵まれた地理的条件の活用を含め、よりよい環境を目指す。

平田議員 詳しく説明されたが、見えない部分、納得できない部分がある。以後、委員会に回す。いじめ、不登校への細かい対応のためには少人数学級が必要。この「一貫校」ではその実施ができないことに大きな不満がある。また不登校から立ち直るチャンスを奪うデメリットについてどう考えるか。

市教委 いじめ事象には早期発見、早期対応が大切。また、学校の形態にかかわらず、継続した対応と見守りが大切。今までも小中の連携を図ってきたが、それ以上に連携して対応できる。いじめにあった子どもを徹底的に守れる。いじめていた子どもを継続的に見守れる。

傍聴記録:宇治小「小中一貫校」を考える会